

令和6年度 修文学院高等学校 学校評価

【教育目標】

- 知的で、明るく、たくましく、共感力をそなえ、国家、社会に貢献できる人間力を養う。
- 【ランドデザイン】80年の歴史・伝統に、新たな息吹を吹き込む「修文新時代」構想）～「不易と流行」、「統一性と多様性」のバランスをどう図るか～
- 【目標領域1】文武両道・全人教育（人間力の育成）
- 1 学院訓「推謙・明朗・強健」人間力育成の不易の価値と位置づけ、あらゆる機会を通して、その具体化を図る
 - 2 男女共学化・新学習指導要領実施のもと、多様な生徒に対応できる「個別最適な学び」を実践する
 - 3 規範意識や帰属意識を高めるために「統一性」を重視し全体指導などを実施する
 - 4 人生100年時代に相応しい「学びの姿勢（どう学ぶか）」を身につけ、学びの土台をつくる
 - 5 心の教育を推進し、共感力・自立心やたくましく精神力を養う
 - 6 学校を取り巻く社会の変化に対応できる資質・能力を育てる
- 【目標領域2】教育は人なり（教師力の向上）
- 1 予習・授業・復習のサイクルを明確にした「修文メソッド」を各教科で確立し、徹底させる
 - 2 教員の授業力向上
- 【目標領域3】地域に信頼される学校（地域連携・高大連携の充実）
- 1 地域社会に貢献し、地域の教育力を活用する
 - 2 高大連携の充実
- 【今年度の重点目標】
- 1 社会人となるための基本を身につけさせる ―「あ・じ・み・そ」の徹底―
 - 2 学習に対する意欲を喚起し、学力を向上させる ―学力の保証―
 - 3 進路実現の充実を図る ―進路指導の充実―
 - 4 心の教育の充実・自立心を育てる ―心の学校―
 - 5 防災教育を推進する ―安心・安全な学校―
 - 6 地域の期待にこたえ、信頼される学校をつくる ―開かれた学校―

※達成度は4段階評価
4：大変よくできた。
3：まあまあできた。
2：あまりできなかった。
1：全くできなかった。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
普通科	基礎学力の定着と応用力の養成	・朝の徹底反復学習の継続実施（ICT活用含む） ・日常的かつ計画的な振り返り	・取り組みに関して、手段、目的、成果を意識、確認する	・各学年やクラスに応じた取り組みがなされている ・ロイノートとスタディーサプリも活用されている	・学年部で話し合い、時期に応じた内容の反復学習を実施することができた。	3	教科担当者と連携することで、さらに内容の濃い学習を展開できると考える。
	視野の拡大と可能性の追求	・全国模試の受験と結果データの活用（進研模試1年～3年、全統模試3年） ・普通科実力テストの実施（全学年2回実施） ・普通科補習の実施（夏15日・冬5日・春4日（特進のみ））	・やりっぱなし指導（受験させっぱなし、結果帳票の返却っぱなしなど）に十分留意する ・可能な限り、学習機会を提供する	・進研模試では校内資料の作成が進み、過年度比較や他校比較ができる環境になった ・夏の進学補習では、15日の進学補習に加えて、約2週間の特別講義期間を実施した	・模試データの活用は昨年度より深まったと考える。特に、3年生における出願指導においては有効な判断基準として活用できた。 ・今年度は、3年生向け特別補習を含めると、年間30日以上長期休暇中補習を実施することができた。一般入試までの進学指導を体系化することができた。	3	低学年での模試データの活用と進学クラスにおける進学補習への参加率を向上させた。
	難関大への挑戦（国公立大学10名以上の合格）	・難関大志望者集団の育成（3Sプロジェクト2年・3年） ・進路ガイダンスの実施と進路情報の発信 ・教師、生徒（保護者）の意識改革	・学力上位者の進路意識向上 ・個別指導の継続指導	・3Sプロジェクト（個別指導）は2年、3年で継続して進行中 ・3Sプロジェクト（土曜午後特別授業）も2年、3年で継続して進行中	・今年度の国公立大学合格者11名のうち普通科から9名の合格者を輩出することができた。	3	・3Sプロジェクトの一環として行ってきた土曜午後の難関大講座に最後まで参加した生徒が国公立大学への合格を果たした。生徒の可能性を早期に発見し、それを育てながら引っ張り続ける仕組み作りを継続したい。 ・県内志向の生徒が多いため、関東・関西の私立大学や地方国公立大学への興味関心も育てていきたい。
	人間力の育成	・普通科「学びの特色化」探究的な学び・ICT活用 ・「目標とする100の学習者像」（教室掲示） ・規律、規範等、生活指導の徹底（個性や互いの尊重、クラス集団の強さ）	・互いの違いを認め合える人間力を身につけさせる ・学校行事への取り組みをきっかけにクラスとしての一体感、普通科としての一体感を醸成する	・ICTの活用は学習機会に限らず進んでいる ・クラス内、生徒間の揉め事は多少はあるものの、昨年度よりは少ない印象。クラス担任と生徒課との連携が進み、早期対応ができています ・2年部において、遅刻者および欠席者が多く、転進学者が8名出ている。現在、不登校傾向の生徒も複数いるため、生徒や保護者に寄り添いながら、早期対応を心がけている。	・昨年に比べて、人間関係によるトラブルは減少したと思われる。早期の段階で、生徒課が指導にあたってくれ、生活指導上、たいへん助けられたことに感謝したい。一方で、2年生を中心に、遅刻・欠席者が多く、不登校傾向の生徒をきめて、学科全体で18名の進路変更者が出てしまったことが残念である ・6号館1Fで学年集会を複数回実施した。時期にふさわしい内容を適切なタイミングで実施することができた。	3	規律・規範を徹底し、進路指導を主軸に置きながら、生活指導を徹底していきたい。 ・集会をすることが目的にならないように留意しながら、クラスや学年、学科での一体感を醸成していきたい。
情報会計科	積極的な資格取得と納得のいく進路実現	・夏季補習、検定直前補習、朝補習の充実 ・緻密な進路指導 ・個人面談の充実	・組織的な検定補習によって、卒業時に全員が技術顕彰の受領を目指す。 ・進学希望者には、個人面談を実施するとともに、資格を利用した推薦制度の紹介をする。 ・就職希望者には、個人面談や面接練習等を実施し、きめ細やかな指導をする。	・84%の生徒が技術顕彰の受領をすることができた。 ・どの学年においても検定取得に向けて、積極的に取り組むことができた。 ・3年生全員が、納得のいく進路選択ができた。特に、検定を活かした大学進学ができたことは特筆に値する。 ・充実した個人面談を行い、悩みや問題の早期発見・早期対応に努めることができた。	・卒業生の95%の生徒が技術顕彰の受領をすることができた。 ・どの学年においても検定取得に向けて、積極的に取り組むことができた。 ・3年生全員が、納得のいく進路選択ができた。特に、検定を活かした大学進学ができたことは特筆に値する。 ・充実した個人面談を行い、悩みや問題の早期発見・早期対応に努めることができた。	3	・次年度は、全員の技術顕彰受領を目指す。 ・次年度においても、積極的な検定取得に取り組ませたい。 ・次年度においても、納得のいく進路選択ができるよう指導をしたい。 ・次年度においても、個人面談を充実させ、きめ細やかな指導をしたい。
	社会人基礎力の育成とICT教育の充実	・報道相の徹底 ・凡事徹底（挨拶・時間・身だしなみ・掃除） ・ICT教育の充実と活用	・報道相を徹底することで、コミュニケーション能力の伸長を図る。 ・挨拶、時間、身だしなみ、掃除等の凡事徹底を通して、社会人基礎力を身につけさせる。 ・ICT機器やクラウドを活用し、最先端のICT教育を推進する。	・あらゆる事柄の指導において、報道相や凡事徹底を心がけたことで社会人基礎力が身についた。 ・BLENDを活用し、毎月末に学科アンケートを実施し、過去の自分・今の自分・未来の自分と向き合うことができた。	・あらゆる事柄の指導において、報道相や凡事徹底を心がけたことで社会人基礎力が身についた。 ・系列大学と連携した授業展開を行い、完成した作品を各種コンテストに出品できた。	3	・社会人基礎力は、どの時代においても求められる不易の部分であるので、引き続き目標として掲げ指導していきたい。 ・ICT教育は、現代において求められる流行の部分であるので、引き続き目標として掲げ指導していきたい。特に、AIの活用に力をいれたい。
家政科	専門教科の技術の習得	・家政科スローガンの実現 ・作品完成までのプロセスの重視	・1年次から、提出期限をしっかりと意識した作品製作に取り組ませる。 ・反復学習の時間などを積極的に活用し、課題完成を目指す。 ・被服課題が増加する2年生の取組みに特に注意を払う。	・2年生の課題への取組みは満足のものとはいえない状況であるので、今後更声掛けを実施していく。 ・2年生の課題への取組みはまだまだである。今後もしっかりと指導していきたい。	・3年生の課題に取り組む姿勢はすばらしく、その自主性がファッションショーの成功に大いに結びついた。 ・2年生の課題への取組みはまだまだである。今後もしっかりと指導していきたい。	3	・ファッションショーに向けて、学科全体で取り組む姿勢を作っていく。 ・今以上に自主的に課題に取り組む姿勢を身に着けるよう指導していきたい。
	幼・大および地域との連携	・系列大学や系列幼稚園との連携 ・地域行事への積極的参加 ・各種コンクールへの応募	・幼児教育学科の施設を利用し、より実践的な技術を身につけさせる。 ・幼稚園での実習の機会を多く持ち、保育分野への興味関心を高める。 ・地域のイベントに積極的に参加させ、地域における役割について意識させる。 ・各種コンクールに積極的にチャレンジする心を育てる。	・今年度も多くのイベントから参加の誘いを受け、代表生徒が作品を披露することができた。 ・トーナールで10回入賞を果たした生徒もあり、コンクールへ積極的に参加しようという心が育ってきている。	・幼児教育学科の先生に造形表現の講義をしていただき、それを幼稚園実習に活かすことができた。 ・多くの生徒がコンテストに多数出品することができた。また、13もの輝かしい賞を受賞し、卒業時に功労賞に輝いた生徒も排出した。	3	・地域イベントに積極的に参加し、本校の取組みを知っていただ（助け）きたい。 ・幼稚園や大学との連携を深め、保育分野への関心を高めていきたい。
食物調理科	調理技術と知識の習得	・挨拶、礼儀、時間厳守など基本的生活習慣の徹底 ・「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」、「整」を意識した指導	・基本的な生活習慣を確立させ、調理師としての自覚を育てる。 ・衛生管理の指導を定期的かつ継続的に実施する。	・2学期になって遅刻や欠席が増えてきている。根気強く声掛けをしていく。 ・テスト中にロッカーの点検をし、衛生管理に努めている。	・春季技術審査に3年生全員が合格することができた。 ・生活面で指導することが増え、その生徒への対応に苦慮した。	3	・衛生管理を意識した指導を一丸となって取り組んでいきたい。
	地域に根づく学科	・定番イベントの更なる拡充 ・新規イベントへの参入 ・調理実習室で実施できるイベントの構築	・積極的に地域への広報活動を実施する。	・『こどもクッキングいちのみや』を今年は初めて本校の調理実習室を使用して、中学生対象に実施した。 ・『おもてなしモーニングcafé』に参加し、メニュー考案から販売まで生徒が積極的に参加することができた。	・2月に生徒主体で「SHUBUN CAFÉ」をオープンすることができ、実践的な力を学ぶことができた。	3	・地元企業との商品開発ができるように、外部への情報発信の仕方を検討する必要がある。
総務課	防災教育・安全教育の推進	・防災教育の推進、安全教育の周知徹底	・危機を予防するために、安全点検・防災訓練を実施し、安全に行動できる知識や能力を育成する。	・4月に避難訓練、9月にシェイクアウト訓練を行った。11月に防災講話（1年生対象）を行う予定である。 ・今後も安全点検を定期的に行い、迅速に修理改善に努める。	・生徒は、防災についての訓練・講話を行い、防災や安全教育の推進を図った。月末の安全点検を行い、修理改善に努めたが、危機管理体制の徹底がまだまだ十分とは言えない。	3	・教職員、生徒とともに、校内の安全対策、災害への防災意識を高め、安全行動的に行える危機管理体制を構築する。
	P T A や同窓会組織の充実	・P T A 活動の主體的な取組みへの支援 ・同窓会活動の充実やネットワークづくり	・校務支援システム（B L E N D）やホームページを通して取組みを紹介し、協力連携を図り、P T A や同窓会の活動を主体的・活発的に行うため、提案や支援をする。	・昨年度に引き続き、文化祭PTAバザーを実施、その後の交通安全指導、私学振興推進大会等PTA行事は、順調に行われた。 ・同窓会総会は12号館にて講師を招いての講座を実施した。また、昨年度に引き続き、研修旅行（豊橋方面）も実施された。	・PTA活動として、文化祭でのリサイクルバザー、研修旅行、評議員会、卒業式の役員参加を実施できた。 ・同窓会報第3号の発行を令和7年5月に定め、準備をすすめている。	4	・PTA活動の更なる充実、創立100周年に向けての同窓会組織の基礎固めを行うなど、活動を活性化させていく。
教務課	生徒の学力向上	・基礎学力の定着と応用力の養成	・徹底反復学習にしっかりと取組ませ、到達度テストでの運動課題配付を促し、基礎学力の定着を図る。 ・模擬試験や検定を積極的に受験させ、入試に対応できる能力を身につけさせる。	・8:30と13:15着席がほぼ守られてた。到達度テストでの運動課題にもほとんどの生徒がやりきれた。 ・進路課主導の模擬試験や各教科主導の検定にも積極的に受験できていた。			
		・英語教育と理数教育の充実	・授業以外にオンライン英会話、海外・国内語学研修を通し、興味関心を抱かせ、英語力向上を図る。 ・教員、施設、設備を充実させ、理数教育を強化する。	・月一のオンライン英会話を実施し、ハワイ語学研修も実施した。 ・理数教育は、新理科室の使用頻度も高く充実している。			
	教員の授業力向上	・授業規律の確立と授業力の向上	・始業や終業のけじめと挨拶を徹底する。 ・ICTの授業を取入れ、アダプティブな対応で生徒の学習効果の向上に努める。	・全教室にプロジェクターを設置し、黒板に投影しながらの授業が増えた。全学年一人一台タブレットが整い、スタディサプリやロイノートの活用率が高まっている。			
	図書館の利用促進	・読書環境の整備	・良質な読書環境を整備する。 ・図書館を授業、特別活動等で計画的に利用し、生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。	・図書館の閲覧室にタイラーベットの敷き、耐震対応をした書棚を設置した。また、プラウジングコーナーにはソファや机を新調したことにより、図書館環境が充実し、生徒の利用が増加した。			
生徒課	生徒指導体制の確立	・各学科に生徒指導教員を配置する ・特別指導に該当する場合は、生徒指導部会、生徒指導委員会を開く	・生徒指導担当教員に丸投げすることなく、全教職員で生徒指導にあたる	・生徒指導体制の確立が不十分であり、段階を踏んだ指導体制の確立が課題である ・特別指導に対する生徒指導部会、生徒指導委員会を開き指導方針、指導内容を決定できた	・生徒指導体制の確立が不十分で終わったと感じる。来年度の課題である。 ・生徒指導部会を実施し、生徒指導教員全員が指導に当たることができた。	3	・学科ごとの指導体制を整備する。 ・指導の事例により、誰がどのような指導をするかの体制を確立する。
	部活動の充実	・活動場所の確保 ・予算の充実	・勝利、結果のみを求めめるのではなく、総合的な人間育成を図る	・部活動の活動場所については顧問間で調整をして実施できていた ・予算については生徒会のみならず必要なものの購入はできている	・顧問間での協力のもと、譲り合い活動することができた。 ・予算は充実している。 ・部活動を通じて人間教育を果たす姿勢が感じられる。	4	・活動場所の拡大を図る。 ・部活動を通じて更なる人間教育を図る。
	生徒主体の学校行事、委員会への移行	・生徒会から意見を吸い上げ、生徒主体に移行する	・生徒の意見を精査し、生徒の言う通りにならないようにする ・生徒の意見を操作することのないようにする	・生徒会からの意見を尊重できることとできないことを精査し実施できた ・生徒会と教員双方が力を合わせ、学校全体をよくするための方策を考えていきたい	・生徒会からの意見を吸い上げ球技大会を実施した。 ・生徒の意見を聞き、できることとできないことを精査することができた。	3	・生徒会からの意見をどこまで聞き入れるか慎重な判断が必要である。
進路課	難関大への積極的な挑戦	・計画的に進路検討会を開き、進路指導の充実 ・学科の特徴を活かし、多様な入試制度に挑戦させる。	・複数教員の意見により個々の指導方法を検討し、本人にしっかりと理解させる。 ・専門学科ならではの挑戦方法を模索し、指導に役立てる。	・進路検討会を1学期末に開催し、進学希望者の情報共有を3年生担任を中心に行った。 ・資格を有効に利用し、生徒の適性に応じた入試方法を担任より助言している。	・国公立大を含めた難関大への合格を各種入試方法により果たすことができた。 ・資格取得を専門学科からの国公立合格は、担任を中心としたきめ細やかなサポートの成果であった。	3	・学科やコースに合わせた最適な入試方法を検討し、前年度以上の実績へと繋げた。 ・今年度の指導実績を次年度へ継承する。 ・特別編成授業、補習の内容等にて工夫を加える。
	進路意識を明確にする行事の工夫	・3年進学補習の在り方を明確にする。 ・模試の結果の分析および各教科と情報の共有をする。 ・学科・学年単位での指導策を工夫する。	・内部選抜・学校推薦型選抜とも関連付けた指導方法を検討する。 ・1日からの模試対策や事後指導、結果の振り返りを各教科と情報を共有し、学力の定着を図る。 ・外部講師による進路説明会や就職説明会を企画し書く学科の特徴を引き出させる。	・補習参加を出願条件とし、部活動にも配慮した補習が展開できている。 ・模試の事前、事後指導が定着しつつある。 ・就職希望者には外部講師によるガイダンスを行うことで本書に向け参考とすることができた。	・適格な入試方法の選択と効果的な学科指導により進路希望実現へと繋げた。 ・共通テスト受験による特編授業が学科全体で運用できた。	3	・内部選抜制度を有効活用する。 ・計画的な情報提供に努める。 ・進路決定者への指導策を学科ごとに工夫する。
	地元企業への就職内定	・就職希望者に対して就労感育成し就職試験対策を強化する。	・12年生にはインターンシップへの積極的な参加を勧め、3年生には就職試験対策の講座を充実させる。	・就労感を利用したインターンシップは多くの生徒が参加し就職の育成に繋がった。	・希望者全員が第一希望の内定を得てはいないが、諦めない活動により全員の内定を獲得することができた。	4	・地元大手企業からの求人に応える生徒の育成に早期から着手する。
広報課	情報発信と広報活動の充実	・ホームページ、SNS、学校案内といった広報活動を通して、本校の魅力を継続的に発信する	・ホームページ、SNS、学校案内等、より一層見やすく魅力的なものにしていく。 ・学校説明会、入試説明会等の内容をより一層拡充し、本校の魅力を発信する。	・さらなる見やすく魅力あるホームページを目指し、学院全体でブランド価値を高めるホームページの策定中である。 ・特色ある学校説明会を実施し、本校の魅力を発信することができた。	・学院全体でブランド価値を高めるホームページを構築できる協業先を選定することができた。 ・特色ある学校説明会を実施し、本校の魅力を継続的に発信することができた。	4	・見やすく魅力あるホームページを目指し、学院全体でブランド価値を高めるホームページを協業先と構築する。 ・特色ある学校説明会を実施し、本校の魅力を最大限に発信するアイデアを提案する。